

令和元年度

教育に関する事務の管理及び
執行状況の点検及び評価報告書

令和2年9月

根室市教育委員会

目 次

I	はじめに	P 1
II	点検評価の基本方針	P 1
III	点検評価の結果	P 3
	1. 社会を生きる力の育成	P 3
	2. 豊かな人間性と健やかな体の育成	P 8
	3. 特別支援教育の充実	P 11
	4. 教育環境の整備・充実	P 14
	5. 地域で子どもを育てる環境づくりの充実	P 18
	6. 歴史・文化・スポーツなど社会教育活動の充実	P 21
	学識経験者の意見（総評）	P 35

I はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「地教行法」という。）により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しなければならないこととされております。

本報告書は、同法に基づき教育委員会が行った令和元年度事務事業の点検評価の結果をまとめたものです。

II 点検評価の基本方針

1 目的

教育委員会は、その権限に属する事務の管理及び執行の状況を自ら点検評価し、その結果を議会に報告するとともに市民に公表します。

この点検評価は、効果的な教育行政の推進に資するとともに、市民に対する説明責任を果たしていくことを目的としています。

2 点検評価の対象及び方法

本点検評価の対象は、前年度（令和元年度）の事務事業の実績とし、その範囲は、学校での学習指導・生徒指導に関することや、社会教育に関することなど、地教行法第21条で「教育委員会の職務権限」と規定されている事務をはじめ、市長の補助執行として行っている事務など、本委員会が所管する全ての事務事業としています。

当教育委員会では、毎年、教育行政の取組方針を教育行政方針として策定し、市議会に示しており、本報告においては、方針に掲げられた主な施策の実施状況等を参考としながら、その管理及び執行の状況について点検評価を実施いたしました。

3 学識経験者の知見の活用

本点検評価の実施にあたっては、地教行法第26条第2項の規定により、3名の学識経験者から個別に意見を伺い、その知見の活用を図りました。

なお、学識経験者は、学校教育分野及び社会教育分野において教育や人材育成に携わり、高い見識を有する方から選任し、幅広い観点での知見を活用するよう努めたところです。

○ 松 井 信 輝 氏 元根室市立花咲小学校校長

○ 原 田 純 子 氏 根室市社会教育委員長

○ 岡 田 勝 治 氏 根室市PTA 連合会会長

〔参 考〕

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

Ⅲ 点検評価の結果

(1) 社会を生きる力の育成

執行方針

新学習指導要領の全面実施を見据えたとき、子どもたちがこれからの時代を生き抜く力を身に付けるためには、「主体的・対話的で深い学び」の視点から、「何を学ぶか」だけでなく「どのように学ぶか」も重視して授業改善を進めるとともに、「カリキュラム・マネジメント」を確立して教育活動の質を向上させ、教育効果を高めていくことが重要です。

- そのため、当市の学力向上対策の基本的考え方を定める「根室市確かな学力向上に関する取組方針」に基づき、今後とも、全国学力・学習状況調査や標準学力検査いわゆるCRT等を活用しながら、学力や学習状況の把握・分析と指導方法の改善を連動させる検証改善サイクルの確立に向け、さらに引き続き取り組んでまいります。
- また、学力向上等補助教員を活用した習熟度別指導、チーム・ティーチングなどにより、個に応じたきめ細かな学習指導を進めるとともに、小学校における英語の教科化に向け英語担当教員の巡回指導を実施し、また、国や北海道における各種の学力向上支援事業についても積極的な活用を図ってまいります。
- さらに、学力向上対策の全国的な先進地域に教員を派遣するとともに、当市に教員を招聘（へい）し模擬授業を行うことなどを通じ、教員の授業力の向上を図ってまいります。
- また、子どもたちの「自ら学ぶ意欲」の向上のため、「生活リズムチェックシート」の活用などにより家庭における学習習慣の定着化を目指し、学校・家庭・地域・行政が一層連携して学びの環境づくりに取り組んでまいります。

主な事業内容等

事業名等	場所等	参加者等	備考
学校評議員の全校委嘱	市内小中学校	56名	
学校評議員会議の開催	市内小中学校	22回	
学校評価の実施	市内小中学校	15校	

初任段階研修	各学校他	56名	法定研修 (1年次22名、2年次8名、3年次8名、4年次6名、5年次8名、養護1年次1名、3年次1名、4年次2名)
中堅教諭等資質向上研修	各学校他	9名	法定研修
各種教員研修	北海道教育研究所他	195名	
校内研修の実施	市内小中学校	15校	
学力向上プロジェクト推進会議による講師招聘による模範授業	成央小学校	70名	講師：羽咋市立羽咋小学校教諭 2名
学力向上プロジェクト推進会議による先進地視察研修	石川県羽咋市	10名	校長1名、教諭9名
指導参事の学校経営訪問	市内小中学校	30回	15校×2回
指導主事等の学校派遣	市内小中学校	37回	15校
校長連絡会議	総合文化会館	12名	13回
教頭連絡会議	総合文化会館	14名	11回
北海道教育大学釧路校新入生研修	花咲港小学校 海星小中学校 落石小学校 厚床小中学校	35名	大学生研修
北海道教育大学釧路校へき地校体験実習	花咲港小学校	4名	大学生研修
根室市教育研究会との連携	各小中学校など		
学力向上補助教員	北斗小学校 花咲小学校 成央小学校 齒舞小中学校 光洋中学校 柏陵中学校	1名 1名 1名 1名 1名 1名	学力向上補助教員
指導方法工夫改善教員定数加配	北斗小学校 花咲小学校 光洋中学校 柏陵中学校	1名 1名 2名 2名	教職員定数の加配
退職教員等の外部人材活用事業時間講師の配置	北斗小学校 柏陵中学校	1名 1名	
理科備品整備事業	各小中学校	12校	小 251千円 中 240千円
総合学習推進事業	各小中学校	15校	

水産教育の推進	歯舞小学校 歯舞中学校	93名 52名	
語学指導の充実	小学校8校 中学校7校	1名 2名	民間人講師（1名） 外国語指導助手（2名）
授業改善推進チーム活用事業による教員加配	北斗小学校 花咲小学校 成央小学校	1名 1名 1名	
小学校外国語巡回指導教員加配	北斗小学校	1名	各小学校を加配教員が巡回指導
全国学力・学習状況調査の実施	各小中学校	194名 193名	小学校6年 中学校3年
児童生徒支援教員の加配	成央小学校 光洋中学校 柏陵中学校 啓雲中学校	1名 1名 1名 1名	
キャリア教育の実施	市内中学校	7校	職場体験学習等
愛鳥活動モデル校	厚床小学校	22名	北海道指定
スクールバスの運行	9路線 8小中学校	173名	
遠距離通学費の支給	北斗小学校 光洋中学校 柏陵中学校	2名 5名 1名	
学校健診の実施	各小中学校	1,667名	
全国体力・運動能力・運動習慣等調査の実施	各小中学校	183名 170名	小学校5年 中学校2年
主体的・対話的で深い学びの推進事業の実施	北斗小学校		文科省指定事業

施策評価

- 学校評価については、自己評価及び学校関係者評価が全ての小中学校で実施されており、学校の経営改善に効果をあげている。
- 教職員研修については、初任段階研修、在職期間が10年に達した教諭等を対象とした中堅教諭等資質向上研修などに、関係する教職員が積極的に参加し、研鑽を積んでいるほか、また、北海道立教育研究所主催の研修や校内研修などを通じて教職員の育成が図られている。また、当教育委員会と北海道立教育研究所との共催により研修会を実施し、教員の指導力向上に努めている。
- 教育局の指導監及び指導主事並びに市教委の学校教育指導参事による学校教育に係る専門的事項の指導を小中学校全校に対し実施し、学校教育の充実を図っている。

- 校長会、教頭会との連絡会議を毎月開催し、教育委員会からの指示、連絡事項を直接伝え、校長、教頭との連携を密にして円滑な学校教育の実施に努めている。
- 北海道教育大学釧路校と協定し、新入生研修や体験実習を受け入れ、へき地校の実態に直接触れることで、今日の教育の諸課題に対応する高い教育実践力・諸課題解決能力を持つことができるよう寄与している。
- 学力向上や生徒指導等の教育課題の改善を目的とし、北海道公立小中学校教職員広域人事要項に基づき、他管内との人事交流を実施している（中堅教員の受入れ1名、若手教員の派遣2名）。また、根室市の教職員の年齢構成が偏り若年教員が多いことから、管内人事を活性化して、年齢構成の適正化を図る必要がある。
- 市内の教職員で組織する根室市教育研究会の研修活動は、教職員の資質向上や教師力の向上など学校教育に果たす役割が大きいことから、連携に配慮するよう努めている。
- 標準学力調査の結果に基づき、児童生徒の基礎的・基本的な学習内容の定着状況を把握し、各学校における学習指導の充実を資するため、教職員を中心とした根室市学力向上プロジェクト推進会議を設置し、調査結果分析、指導方法の工夫改善及び授業改善に努めている。
 また、昨年度に引き続き、学力向上対策に成果を上げている地域（石川県はくいし羽咋市）へ校長1名、教諭9名を派遣する視察研修を実施し、視察結果の報告書を全教員に配布した。また、羽咋市立羽咋小学校教諭（2名）を外部講師に招き、成央小学校において模範授業を実施し、模範授業を通じて市内小中学校教員70名が授業力の向上を図った。
- 文科省事業「主体的・対話的で深い学びの推進事業」（平成30年度から令和元年度）を受託し、北斗小学校を研究指定校として学力向上のための基礎的知識・技能の習得に向けて、検証改善サイクルを基盤とした授業改善を図る学校組織構築の調査・研究に取り組んだ。
- 「根室市確かな学力向上に関する取組方針」に基づき、各学校において、家庭での学習習慣定着の必要性を保護者に訴えるなどの取組を行った。
- 指導体制の充実を図るため、市費により学力向上等補助教員を北斗小学校・花咲小学校・成央小学校・歯舞小中学校・光洋中学校・柏陵中学校の6校に各1名配置し、習熟度別指導、チーム・ティーチング指導、放課後補習指導や長期休業中の補習等を行い、きめ細かな指導と確かな学力の定着を図っている。なお、補助教員においては募集定員に満たず、一部の学校で配置ができないなど、人材確保に課題が生じている。
- 北斗小学校、花咲小学校、光洋中学校、柏陵中学校の4校で教員定数の加配を受けて、指導方法の工夫改善事業として習熟度別指導やチーム・ティーチングを実施し、生徒個々に応じたきめ細かな学力の定着を図っている。

- 北斗小学校、花咲小学校、成央小学校の3校で授業改善推進チーム活用事業の加配を受けて、加配教員を中心に、指導方法等の工夫改善や学習規律の統一に向けた取組を実施し、学力向上を図っている。
- 各学校において、学力向上に向けた具体的な取組を学校経営方針に位置付けさせるとともに、進捗状況や効果について、定期的にヒアリングを実施している。
- 国の補助を得て、全ての小中学校において理科備品整備を実施しており、より効果的な学習環境を確保するため、今後も継続的に整備を続けていく必要がある。
- 朝読書、朝学習、補習授業を全ての小中学校で実施している。
- 総合的な学習の時間を推進し、地域の人材を講師として活用し、自ら学び自ら考える力の育成を図っている。
- 特色ある学校づくりの一貫として水産教育を実施している学校及びPTAに対し、その活動を支援し産業教育の振興を図っている。
- 語学指導の充実と国際理解を図るため、英語を母国語とする外国語指導助手を招致し、小中学校における語学の習熟と国際理解の推進に成果をあげている。また、平成30年度から外国語指導助手を2名に増員し、新学習指導要領における小学校外国語活動の先行実施に向けた体制の充実を図っている。また、道の小学校外国語巡回指導教員活用事業により、加配教員が市内全小学校を巡回し、小学校教員における外国語活動の指導力向上に努めている。
- 市内の英会話スクールと契約し、小学校へ外国人講師を派遣し、児童が外国語について興味関心を持つよう取組を行っている。
- 全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、引き続き、学力向上に向けた取組を徹底するとともに、学校全体の学習環境の見直しや正答率の低い児童生徒の学習状況を改善するなどの取組を行っている。
- 成央小学校・光洋中学校・柏陵中学校・啓雲中学校の4校で教員定数の加配を受けて、児童生徒の生徒指導上の支援の改善を図っている。
- 子どもたちが「生きる力」を身に付け、社会人・職業人として自立していくことができるよう、キャリア教育の推進が強く求められており、全ての中学校で職場体験等を実施している。
- 厚床小学校では、学校周辺の森を自然学習の場として活用し、北海道の愛鳥活動モデル校の指定を受けており、野鳥観察などを通して自然や環境に対する学習を深めるなど、著しい成果をあげている。

- 通学の負担の大きい地域の児童生徒に対するスクールバスの運行や路線バス代の支給を行い、通学の安全確保を図っている。
- 学校健診の実施を通じて、児童生徒の健康の増進を図り、学校教育活動の円滑な実施に大きな効果をあげている。
- 全国体力・運動能力、運動習慣等調査（小学校第5学年、中学校第2学年）において、小学校男女と中学校男子では、全国平均を上回る種目も見られたが、中学校女子では、全種目が全国平均を下回る結果となり、喫緊の課題として体力・運動能力向上対策を検討する必要がある。
- 学校においては、「生活リズムチェックシート」を活用し、家庭での学習習慣や規則正しい生活習慣の定着化に取り組んでいるが、全国学力・学習状況調査の結果においては、テレビゲーム等のゲーム関係や携帯電話・スマホ等の利用に使われる時間が著しく長く、学習活動や家庭とのコミュニケーションづくりにも大きな影響を及ぼしていることから、各学校の実態に応じながら「スイッチオフ22」を全校で取り組んでいる。
- 中学校の部活動について、平成31年3月に「根室市中学校に係る部活動の方針」を策定し、休養日や活動時間の設定により、けがの防止や心身のリフレッシュを図るほか、生徒のバランスのとれた生活や心身の成長への配慮するための環境整備を進めている。
- 新型コロナウイルス感染症拡大により北海道教育委員会及び国の要請を受け、2月27日から3月24日まで一斉臨時休業を行い、引き続き学年末休業に移行した。

(2) 豊かな人間性と健やかな体の育成

執行方針

子どもたちの健やかな成長のためには、互いを尊重し合い、他者を思いやる心、自己肯定感、規範意識を育むとともに、充実した人生を送るための基盤となる健康の保持増進や体力の向上が重要です。

- そのため、学習指導要領の趣旨に沿い、「特別の教科 道徳」を要(かなめ)として学校の教育活動全体を通じて行うという道徳教育の基本的な考え方にに基づき、子どもたちが自己の生き方を見つめ、主体的に考え、行動し、自立した人間として成長していくための基盤となる道徳性を養ってまいります。

- また、さきの改定により、いじめの認知やいじめの解消にかかわる判断基準を明確化するなどした「根室市いじめ防止基本方針」に基づき、今後とも、学校・家庭・地域・関係団体の連携を一層強化しながら、啓発・学習などに取り組み、望ましい人間関係の醸成と、いじめの未然防止・早期発見・適切な対処に努めてまいります。
- さらに、学校と家庭が連携して22時に携帯電源を切る「スイッチオフ22」運動の推進や、「学ぶ意欲」の向上でも触れた「生活リズムチェックシート」の活用などにより、基本的な生活習慣の確立を図るとともに、子どもたちがネットトラブルの被害者や加害者にならないよう、インターネット利用に関する家庭のルールづくりを促進します。
- また、ふるさとを理解し、その発展に貢献する意欲や態度の育成に向けて、北方領土返還要求運動原点の地として、一層北方領土学習を深め、未来に向けて考えていく態度を養うため、各学校において副読本や各種教材、資料コーナー等の活用を図りながら、正しい歴史認識と主体的に考える気持ちを育ててまいります。
- さらに、ふるさとの産品に対する理解を深める「ふるさと給食」を食育の一環として継続して実施するほか、子どもたちの体力向上に向けては、運動に親しむ機会の創出や環境づくりを図り、運動やスポーツの楽しさを味わい達成感が得られるよう、体育の授業改善や「1校1実践」などに学校全体で取り組んでまいります。
- また、地震や津波など自然災害から身を守るために必要な知識や能力等の育成に向けて、地域と連携した防災教育の一層の充実を図り、学校の安全確保に努めてまいります。

主な事業内容等

事業名等	場所等	参加者等	備考
根室市青少年問題協議会 いじめ対策専門部会	総合文化会館	11名	
いじめ相談室の開設	青少年相談室内		
電子メールを活用したいじめ相談の実施	根室市ホームページ		
子ども会議の開催	総合文化会館	53名	1回開催
スクールカウンセラー活用事業	花咲小学校 落石小学校 光洋中学校 柏陵中学校 啓雲中学校	5名	北海道委託事業
適応指導教室『ふれあいくらぶ弥生』の開設	ふれあいくらぶ弥生	10名	不登校児童生徒の通級

人権擁護委員会事業の取り組み	各小中学校	15校	人権作文、人権の花
子ども安全ネットによる情報発信	電子メール	7回	
防犯教育の推進	各小中学校	15校	
子ども110番の家	根室市内	173箇所	
北方少年少女塾への参加	小学校7校 中学校4校	230名 127名	北斗小・花咲小・花咲港小・落石小・厚床小・成央小・歯舞小・柏陵中・落石中・歯舞中・啓雲中
北方四島交流訪問事業への参加	小学校1校 中学校3校	14名	落石小・光洋中・落石中・海星中
北方領土弁論大会への取り組み	7中学校	10名	光洋中・柏陵中・落石中・厚床中・歯舞中・啓雲中・海星中

施策評価

- 北海道教育委員会のスクールカウンセラー事業を活用し、花咲小学校・落石小学校・光洋中学校・柏陵中学校・啓雲中学校にスクールカウンセラーを配置し、生徒の悩み相談や、保護者の相談、教員へのサポートを通じ、安心して学校生活を送ることができるよう活動を行い、配置校から高い評価を得ている。
- いじめ相談室の開設やインターネットや電子メールでのいじめ相談ができるホームページを開設し、面談、電話を含め相談しやすい環境づくりに配慮している。
- いじめや問題行動への対応においては、いじめを受けた児童生徒の生命及び心身を保護することが最も重要であることを認識し、学校、家庭、地域住民、行政その他の関係者の連携の下、「根室市いじめ防止基本方針」に基づき、地域全体でいじめ問題を克服することを目指している。
- 「いじめのない明るい学校づくり」をテーマに子ども会議を開催し、根室高校演劇部の協力のもとネットいじめをテーマとした演劇を披露し、いじめをより身近に感じることによって、子どもたちが主体的に考える機会をつくるとともに、児童会・生徒会が中心となって課題を解決する自治力向上を図った。
- 適応指導教室を開設し指導員及び相談員を配置して、各学校と連携を図りながら不登校の問題を中心に児童生徒及び保護者に対する相談活動などにより支援に当たっており、引きこ

もり傾向の強い不登校児童生徒に対しては、適切な働きかけをさらに継続していく必要がある。

- 学校、北海道教育委員会、こども子育て課、児童相談所、警察などと連携を図り児童生徒の問題行動及び児童生徒に対する虐待の疑いについて迅速かつ適切な対応を行っている。
- 人権擁護委員会と法務局との協力により人権作文と人権の花運動を実施し、児童生徒が思いやりの心を体得し豊かな人権感覚を身に付けることに効果をあげている。
- 子どもの緊急避難場所となる子ども110番の家について、市内173箇所を登録しているが、商店の廃業などにより、登録件数は減少傾向にある。
- 市内小中学校では、警察と連携して防犯教室を積極的に実施し、児童生徒に犯罪を避ける力をつけさせるとともに、教職員も訓練を通して危機管理能力の向上を図っている。
- 子ども安全ネットによる電子メールの発信により、不審者情報の共有化と保護者の防犯意識の高揚を図っている。
- 様々な対策をとっているにも関わらず、不審者による声掛け事例が後を絶たないため、より一層関係機関が一体となった安心安全体制の確立を図ることが必要である。
- 小中学校においては、北方領土に関する展示コーナーの設置、北方少年少女塾への積極的な参加や中学生の弁論大会などを通じて北方領土学習の推進を図っている。

(3) 特別支援教育の充実

執行方針

根室市においては、特別な支援を要する児童・生徒の割合が増加しており、こうした子どもたちに対して、個々のニーズに応じた早期からの切れ目のない一貫した教育を行っていくことが大切です。

- そのため、特別な支援を要する児童・生徒の学習活動を支援し、教員の円滑な授業をサポートする特別支援教育支援員を必要に応じ1校にさらに1人を配置するなど、引き続き、各学校の状況を踏まえた配置に努めてまいります。
- また、指導・支援に携わる関係者の理解を深めるため、指導方法に関する研修会を開催するほか、市独自の「子育てファイルりんくす・ねむろ」について、説明内容や記入項目を

分かりやすくするなど工夫を重ねながら、学校と家庭、地域、関係機関等による連携体制の整備を進め、全市的な普及を目指してまいります。

- さらに、児童・生徒の将来の自立につながる専門的な教育を担う機関として、特別支援学校の分校・分教室の当市への誘致実現に向け、引き続き北海道教育委員会と協議してまいります。

主な事業内容等

事業名等	場所等	参加者等	備考
特別支援学級の設置	各小中学校	87名 42名	小学校7校23学級 中学校6校13学級
通級指導教室の設置	花咲小学校	49名	
通級指導の充実	花咲小学校	4名	担当教員の加配
特別支援教育コーディネーターの指名	各小中学校	15校	
特別支援教育校内委員会の設置	各小中学校	15校	
特別支援教育支援員の配置	市内11校	13人	北斗小学校2名 成央小学校2名
介助業務員の配置	啓雲中学校	1名	
就学指導の実施		80名	児童生徒の状態に応じた適切な教育措置の決定
特別支援教育パートナー・ティーチャー派遣事業	9校	65人	児童生徒の指導に対する支援
子ども発達支援事業・専門支援事業	6校	27人	専門家による学校支援
巡回教育相談の実施	根室市役所	7名	
根室市教育支援委員会の開催	文化会館 他	43名	医療関係者2名 学識経験者1名 教育行政関係2名 保健行政関係1名 福祉行政関係1名 学校関係者25名 福祉施設関係4名 民間幼稚園・保育所7名
特別支援教育専門員の配置	教育委員会	1名	
特別支援教育専門員の研修	東京都	1回	WISC-IV知能検査講習会

根室市育ちと学びの相談室『りんくす』の設置	教育委員会	1カ所	
子育てファイル「りんくす・ねむろ」の配布	各世帯	218人	母子手帳配布時及び中学3年生以下転入時に配布
子育てファイル「りんくす・ねむろ」の説明会	文化会館他		
根室市特別支援教育研修会	文化会館他	2回	参加者延べ111名

【特別支援学校分校・分教室の誘致に向けた活動の状況】

月 日	内 容	参加者	場 所
12月19日	花咲港地区住民への特別支援学校の誘致説明会を実施	30名	花咲港会館
2月14日	北海道知事及び北海道教育委員会へ要望書を提出	9名	北海道庁

施策評価

- 北海道教育大学釧路校教授を講師に招き、全教職員を対象とした研修会を開催し、通常学級における教育支援について理解を深めている。
- 特別支援教育支援員を市内11小中学校に拡充して配置し、通常学級における特別な支援を必要とする児童生徒への支援を行っており、特に支援を必要とされる児童生徒が多い学校に対しては、複数配置を行い、体制の充実を図っている。
- 通常学級における学習活動上の支援を必要とする子どもに対し、介助業務員を配置して支援を行い、学校における教育環境の整備に努めている。
- 入学や進級に当たって教育措置の検討が必要な幼児・児童生徒に対し、教育相談や就学指導を行い適切な教育措置の決定を行っている。
- 北海道特別支援教育センターからの相談員の派遣により、障害を持つ児童生徒の状況や就学についての保護者相談を実施し、適正な就学の決定に役立てている。
- 道立特別支援学校からのパートナー・ティーチャーの派遣により、特別に支援を必要とする児童生徒について、より専門的な助言・援助を受け、特別支援教育の質の向上を図っている。

- 特別支援教育の要となる特別支援教育コーディネーターの専任化を含め、特別支援教育推進のための教員の加配措置について、継続して国に働きかける必要がある。
- 花咲小学校に開設の通級指導教室に担当教員を4名配置し、発達障がい児に対する特別支援教育を行っている。また、自校での通級指導を行うことにより、通級指導における支援体制の更なる充実を図るため、成央小学校・北斗小学校に通級指導教室開設の準備を進めている。
- 市が実施する子ども発達支援事業を活用し、特別な支援を必要とする児童生徒が、作業療法士等の専門的支援を受ける機会を確保している。
- 乳幼児期からの一貫した支援を目指し、教育・保健・福祉分野の多岐にわたる相談業務や関係機関との連携体制の構築、特別支援教育の充実を図るため、「根室市特別支援教育専門員」を教育委員会事務局に配置し、「根室市育ちと学びの相談室『りんくす』」を設置している。
- 市独自の「個別の教育支援計画」の基本ツール「子育てファイル『りんくす・ねむろ』」を、乳幼児から中学生までを持つ全家庭に配布している。
- 根室市内に特別支援学校の分校・分教室を誘致のため、候補校とした花咲港地区住民への誘致説明会を行い、地域の合意を得た。また、北海道知事、北海道教育委員会教育長、北海道議会議長、北海道議会文教委員長へ当市への特別支援学校の分校・分教室誘致について要望活動を行った。

(4) 教育環境の整備・充実

執行方針

児童・生徒数の推移や多様化する教育ニーズ、学校施設の老朽化等に対応し、子どもたちが安心して充実した学校生活を送るためには、引き続き、適切な教育環境の整備と教育機能の維持向上を図っていくことが必要です。

- そのため、まず、小中学校の適正配置については、現行の根室市立小中学校適正配置計画を改訂し、光洋中学校と啓雲中学校の令和3年4月統合を目指すこととし、今後、市街地地区中学校3校の2校化に向け、生徒指導の強化や教育課程・学習進度の整合性を図るため、当該3校に市費負担による教員を配置し、教育環境を整備してまいります。

- また、小中一貫・連携教育の推進のため、歯舞小中学校をモデル校として、小学校から中学校まで9年間の義務教育を一貫して行う「義務教育学校」の設置を目指すこととし、保護者や地域の理解を得ながら、その円滑な導入を図ってまいります。
- さらに、これまで申し上げてきた学力の向上、学校の統合、小中一貫教育の導入、特別支援教育の充実など、当市の学校教育における喫緊課題について学校現場との連携・調整を担うため、教育委員会事務局に学校教育指導参事を新設し、各種取組の積極的な推進に努めてまいります。
- 次に、学校におけるICTの利活用については、昨年策定した教育情報化推進計画に基づき、市内全小中学校のWi-Fi環境の整備を進めるとともに、先進的な実践事例の普及や教員の指導力向上などに一層取り組み、学校における情報化を推進してまいります。
- また、教員の住宅環境向上のため、民間活力を導入し、比較的安価で入居できる教員専用アパートの建設・入居を進めるなど、教員住宅の整備に努めてまいります。
- さらに、昨年策定しました「学校における働き方改革のための業務改善計画」に基づき、週60時間以上働く教員の数をゼロにすることを目標に教員の多忙化の解消を図り、持続可能な学校運営体制の整備を進めてまいります。
- 次に、学校給食費については、現行の第3子目以降の無償化を継続するとともに、新たに第1子及び第2子に対する支援策を実施し、食材の価格高騰等による給食費への影響を抑制し、保護者の方々の負担軽減に努めてまいります。
- また、現在の北斗・成央・光洋の3学校給食共同調理場を1箇所に集約するセンター化について、さらなる調査研究を進めてまいります。

主な事業内容等

事業名等	場所等	参加者等	備考
安全な学校給食の実施	各小中学校	1,667名	
ふるさと給食の実施	各小中学校	3回	
学校安全計画及び避難マニュアルの策定	15小中学校	—	
学校閉庁日の実施	15小中学校	15校	長期休業中の9日間

【光洋中学校・啓雲中学校統合準備委員会の開催状況】

月 日	内 容	参加者	場 所
6月 4日	第1回統合準備委員会の開催 ・統合準備委員会設置要綱について ・専門部会の構成について	21名	総合文化会館
6月27日	第2回統合準備委員会の開催 ・校舎等の整備について	15名	根室市役所
9月11日	第3回統合準備委員会の開催 ・統合後の光洋中学校が目指す方向性について ・制服、通学、クラス編成等について	24名	根室市役所
2月20日	第4回統合準備委員会の開催 ・統合後の新しい光洋中学校が目指す姿に関わって ・各専門部会からの進捗状況報告	10名	根室市役所

【歯舞小中学校の義務教育学校化に向けた協議・研修の実施状況】

月 日	内 容	参加者	場 所
7月17日	第1回保護者説明会開催 ・校名、校歌、校章、校訓について ・義務教育学校について	11名	歯舞小中学校
9月 4日	全教職員による根室管内唯一の義務教育学校「計根別学園」の視察を実施	30名	計根別学園
12月15日	第2回保護者説明会の開催 ・校名、校歌、校章、校訓の決定 ・歯舞学園のカリキュラムについて	16名	歯舞小中学校

【学校施設や教員住宅の整備のための主な取組み】

(単位：千円)

事業名等	事業内容	事業費
小中学校消防用設備等整備事業	消防用設備等改修工事	2,786
小学校校舎及び教員住宅営繕事業	市内8小学校・教員住宅の営繕(主なもの) ・北斗小学校通路整備工事	10,499

	<ul style="list-style-type: none"> ・各学校暖房機器修理 ・各教員住宅補修 	
中学校校舎及び教員住宅営繕事業	市内 7 中学校・教員住宅の営繕（主なもの） <ul style="list-style-type: none"> ・光洋中学校渡り廊下軒天補修工事 ・各学校暖房機器修理 ・各教員住宅補修 	10,758
小学校教育環境整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校屋外遊具の整備 ・児童用机の天板購入及び黒板の貼り替え等整備 	11,700
中学校教育環境整備事業	生徒用机の天板購入及び黒板の貼り替え等整備	1,512
教職員住宅環境整備事業	教職員住宅解体工事	1,747
P F I 方式による教職員住宅の整備	2 棟 8 戸の教職員専用アパートの建築について 2 社と契約締結	

施策評価

- 「根室市立小中学校適正配置計画」について、平成 31 年 3 月改訂の計画内容に基づき、光洋中学校と啓雲中学校の統合及び、柏陵中学校と花咲小学校移転の準備を進めている。
- 小中一貫教育の更なる高度化を図ることを目的に、歯舞小学校と歯舞中学校において、令和 2 年 4 月から「歯舞学園」として義務教育学校導入の準備を進めている。
- 民間活力を活用した教職員住宅の新築整備推進のため、住宅建設等事業者を選定し、2 棟 8 戸の事業契約を締結し、令和 2 年 8 月完成を目指している。また、老朽化した空き家住宅を解体し、新築住宅建設用地の確保に努めている。
- 平成 30 年 2 月策定の根室市教育情報化推進計画に基づき、学校における情報環境整備を進めている。また、国の GIGA スクール構想に基づき、児童生徒 1 人に 1 台の端末整備の推進に向けた整備を進めている。
- 地場食材や道産食材を活用した「ふるさと給食の日」を 3 回実施し、児童生徒に使用食材に関するパンフレットを配布し、食育の推進を図っている。
- 給食の安全と地産地消をさらに進めるため、新たな給食調理施設の建設について、民間活力の活用等、更なる調査・研究に取り組んでいる。

- 学校における働き方改革を進めるため、令和2年3月改訂の「学校における働き方改革のための業務改善計画」に基づき、学校、家庭、地域、行政が密接に連携し、教員が本来担うべき業務に専念できる環境整備を進めている。

5. 地域で子どもを育てる環境づくりの充実

執行方針

第5点目は「地域で子どもを育てる環境づくりの充実」であります。

子どもたちが、異なる年齢の人たちとの交流を通じ、さまざまな体験を積み重ね、豊かな感性や情操を育成していくためには、地域コミュニティが中心となり、地域で子どもを育てる取組の充実を図ることが大切です。

- そのため、地域全体で子どもたちの成長を支えることができるよう、専門的な知識・経験を有する人材を活用し、学校運営の改善・充実につなげる「コミュニティ・スクール」の導入に向けた調査・研究を進め、学校と地域の連携・協働を促進します。
- また、子どもたちが異年齢の方々とのさまざまな活動を体験できるよう、引き続き青少年活動リーダーの発掘・養成に努めるなど、青少年の健全育成を推進してまいります。
- さらに、子どもの放課後活動について、放課後教室等の指導員確保に努めるとともに、「放課後子どもプラン」に基づき、地域の方々の参画・協力を得ながら、すべての子どもたちが安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができる居場所づくりに努めてまいります。
- 次に、子どもたちの読書活動の推進については、「根室市子ども読書活動推進計画」に基づき、「子どもブックライフ応援事業」として、乳幼児や小学校1年生児童に対する「ブックスタート事業」・「セカンドブック事業」を継続して実施し、子どもたちと本との出会い・交流を支援するほか、家族での「家読（うちどく）」の普及や図書館の利用促進、各種読書普及活動を積極的に進めてまいります。

主な事業内容等

【子どもの放課後活動】

事業名等	場所等	開催日	参加者等	備考
「教えて地域の先生」	市内小中学校	4月～3月	488名	11回
人材バンク事業	市内	4月～3月	39名	放課後教室関係など
子ども会リーダー研修	総合文化会館他	6/22～ 12/7	49名	6回
第34回子ども百人一首カルタ大会	北方四島交流センター	1/19	24名	8チーム
子ども長靴アイスホッケー体験会	市営アイスホッケーリンク	2/8	14名	
放課後教室・西浜児童会館の開設	放課後教室等	4月～3月	35,900名	西浜児童会館は、指導員が配置できず臨時休館
歯舞児童教室の開設	歯舞児童教室	4月～3月	7,244名	
花咲港児童教室の開設	花咲港児童教室	4月～3月	1,975名	
放課後子どもプラン事業	放課後教室等	4月～2月	5,010名	110事業
高齢者とのふれあい事業	西浜児童会館	5/11 ～2/1	160名	5回
ねむろわんぱくチャレンジ事業	各施設等	4月～2月	ブロンズ賞 17名 シルバー賞 18名 チャレンジ大賞 8名 マイスター 4名	
子どもの日のつどい	総合文化会館	5/3	1,600名	

【読書活動の推進】

事業名等	開催日時	参加者等	備考
「ブックライフ応援事業」 (ブックスタート事業)	毎月	回数 11回 対象親子 131組	参加率 100%
「ブックライフ応援事業」 (セカンドブック事業)	11/6 ～11/26	市内8小学校 1年生児童 160名	15冊の図書リストから希望の1冊を贈呈し、趣旨を含め読書普及した。
「ブックライフ応援事業」 (絵本講演会)	10/6～ 10/7	講演会参加者70名 学校講演会 歯舞小学校107名 落石小学校51名	講師 よしながこうたく氏
ちいさい子のおはなし会	毎週火曜	回数 35回	乳幼児 110人

		参加人数 215人	大人 105人
土曜おはなし会（ボランティア）	毎週土曜	回数 42回 参加人数 533人	ボランティア延べ人数 131人
「こどものつどい」	年4回	回数 3回 参加人数 321人	子ども 172人 大人 149人
「親子読書会」の育成	通年	例会参加親子 延べ70人	2会・7組=14人
読書推進 学校等訪問事業 （うち「乳幼児親子向けおはなし会」）	随時 （年11回）	件数 25件 参加人数 899人 （内）保育所・小学校・放課後教室 = 14件・625人 子育て支援施設 = 11件・274人	
図書館訪問・調べ学習 受入れ	通年	保育所・小中学校 12件・348人	
学級文庫ブックバンク事業	5~11月	60クラス 1,157人	小学校 46クラス 中学校 14クラス

施策評価

- 「コミュニティ・スクール」の導入について、社会教育委員の会議での協議や関係団体と連携し講演会を開催するなど、調査・研究を進めている。
- 「教えて地域の先生」では、地域の専門的な知識や経験を有する方々に小中学校の授業の中で、ラジオ体操や浴衣の着付けなどの指導を行い、「地域の先生」として子どもたちとふれあうことで「子どもは地域で育てる」環境の醸成に努めている。
- 「子ども会リーダー研修会」では、清掃ボランティアや募金活動のほか、風蓮湖ネイチャークルーズで洋上からアザラシやオジロワシなどの観察を行うなど、根室の自然をより深く学習しながら、集団活動での協調性を養いリーダー育成に努めている。
- 嘱託・臨時職員の会計年度任用職員への制度移行に伴い、放課後教室等の指導員不足の解消策として、業務内容等労働環境の改定に取り組んだ。
- 西浜児童会館の指導員体制を整えることができなかったため、引き続き臨時休館とした。

- 各放課後教室等において、各種事業に地域の方々を講師として、交通安全紙芝居や四島かるた、夏・冬休み午前の学習の時間や高齢者とのもちつき交流などを実施し、地域との交流、異世代間交流などの推進に努めている。
- 長靴アイスホッケー大会は、学校のスケートリンク開設が減少し、練習が難しくなったことから、長靴アイスホッケー連盟の協力を得て、気軽に参加できる体験会として開催し、半日で指導者が驚くほど子どもたちは上達した。なお、今後の開催には検討が必要である。
- 町会が管理運営する児童小公園の遊具を3基更新するとともに、遊具の点検結果を基に修繕を行い、子どもたちが安心して活動できる地域の遊び場の確保に努めている。
- 子ども読書活動推進計画に基づき、活動を推進し、子どもたちのさらなる読書意欲を高め、家庭内での「家読」（うちどく）を促進している。
- 子どもたちの読書に親しむきっかけ作りや読書習慣の形成を図ることを目的に、乳幼児期における「ブックスタート事業」と、すべての小学校1年生児童を対象とする「セカンドブック事業」を継続して実施している。
- 「絵本講演会」では、絵本作家のよしながこうたく氏の絵本『給食番長』の読み聞かせと、子どもたちとのライブペイントによるオリジナルキャラクター「ぶちのうう」君の作成を実施し、参加者の好評をいただいたほか、歯舞小学校・落石小学校において学校講演会（ライブペイント）を実施し、同じくオリジナルキャラクターを児童と作成した。
- 「2019・第73回読書週間」行事の一環として、オホーツク風雲ワクワク団を招き「こどものつどい」を開催し、90名の親子が工作で「作る楽しみ」や、パネルシアターと人形劇による「物語の楽しみ」を体験した。
- 「1年生親子読書会」は、近年の応募者減少を考慮し「1・2年生親子読書会」として、2組4名の親子で発会し、例会では「1日司書体験」「としょかんキャンプ」など、親子で楽しみ、語り合えるような体験型の企画を多く行い、年度末には7組14名となるなど、新たな会員の獲得へとつなげている。

6. 歴史・文化・スポーツなど社会教育活動の充実

執行方針

最後に第6点目は「歴史・文化・スポーツなど社会教育活動の充実」であります。

市民一人ひとりが心豊かで健康な生活を送るためには、生涯を通じて積極的に学び、その成果を生かせる環境づくりが大切であり、さまざまなニーズに応じた学習・発表機会を提供することが求められます。

- そのため、まず、文化の振興については、根室市総合文化会館事業協会と連携し、優れた舞台芸術鑑賞機会の提供・充実に努めるとともに、根室市文化協会等との協働による市民の芸術文化活動の支援や、総合文化会館収蔵美術展の開催に取り組むほか、総合文化会館大小ホールのモニターカメラ改修やトイレの洋式化を進め、文化活動環境や来館者の利便性の向上を図ってまいります。
- また、北構保男氏から寄贈いただいた13万点に及ぶ埋蔵文化財について、今後、発掘・調査等にかかわる報告書作成などの検討を進めながら、考古資料の一部につきましては歴史と自然の資料館で展示・公開するなど有効活用に努めるほか、同館の大型収蔵室とトイレの改修工事を行い、収蔵品保管環境や来館者の利便性の向上を図ってまいります。
- さらに、国指定天然記念物「カラフトルリシジミ」等が生息する高層湿原について初のモニタリング調査を実施し、動植物の生息状況等の実態把握を行うほか、管内文化財を活用した観光地域づくりを目指す「日本遺産」については、現在、新たな観点からストーリーを整理し、文化庁へ1市4町の共同申請書を再提出しているところであり、今後、認定の可否を見据えながら、引き続き文化財の適切な活用にかかる情報発信等に努め、当市の貴重な歴史や自然の普及に取り組んでまいります。
- また、公民館活動については、ニーズ把握や新たな視点からの講座開設等、幼児期から高齢期にわたる学習機会を提供し、市民の自主的・主体的な参画を進めるなど、生涯学習活動のさらなる活性化に努めてまいります。
- 次に、スポーツの振興については、市民誰もが日常生活の中でスポーツ活動に親しむことができるよう、各種団体と連携・協力の下、指導者養成やスポーツ少年団の育成・支援など活性化に努めるとともに、青少年センター体育館床面や温水プール濾(ろ)過装置の改修、車輛整備など、スポーツ環境の向上を図ってまいります。
- また、一昨年の新たなスタートから本年度で3年目となる「最東端ねむろシーサイドマラソン」については、エントリー数が過去2年とも目標の1千人に達し好評を博していることから、本年度も市民の健康増進や体力の向上、さらには全国から当市を訪れる愛好者との貴重な交流の機会として、地域振興や北方領土問題啓発にも資する競技会となるよう努めてまいります。
- さらに、総合体育館の建設に向けては、市民・利用者・競技団体に対する意向調査を基にした「整備市民委員会」の協議・検討の結果を踏まえ基本方針を取りまとめ、今後、これを

ベースとして、建設に向けた基本構想の策定を目指してまいります。

- また、文化・スポーツ両面において児童・生徒の活躍を支援する「みらいのアーティスト・アスリート応援事業」については、スタジオジブリ作品の背景画家や美術監督を務める 山本二三(にそう) 氏の企画展やスポーツ講演会などを開催し、鑑賞・体験機会の充実に努めてまいります。
- 次に、図書館活動については、市民にとって親しみのある読書・学習活動を支える拠点施設として資料整備や屋根改修等により利用環境の整備・充実を図るとともに、図書館カフェでの「大人のための読み聞かせ」や、郵便局と連携した「まちなかライブラリー」、「高齢者図書お届けサービス」などにより、地域との連携を深めながら、「おとな」の読書活動推進のための各種事業に取り組み、市民への読書の楽しみを拡充してまいります。

主な事業内容等

【社会教育活動】

事業名等	場所等	開催日	参加者等	備考
文化賞贈呈式	—	—	—	受賞者なし
成人式	総合文化会館	1/12	161名	
若ものの学園	総合文化会館 他	6/5~12/3	94名	4講座 11回
青年交流事業 ・ボウリング大会 ・よさこい体験	ボウリング場 市内	1/24 9/19	15名 4名	
根室市青年国内研修事業	—	—	—	新型コロナウイルスにより中止

【別当賀夢原館利用状況】

項目		利用件数	利用者数
利用		37件	112名
使用	専用	39件	632名
	宿泊	24件	435名
	使用計	63件	1,067名
合計		100件	1,179名

【文化会館活動】

事業名	場 所	開催日・回数	参加者等
舞台芸術鑑賞事業 ・渡辺貞夫クインテット 2019 ・山下達郎 [®] フォーメア 2019 根室公演 ・清水ミチコ コンサート	総合文化会館 総合文化会館 総合文化会館	7/23 10/13 順延（調整中）	延1, 224名
各種団体との連携による事業			
第66回写真道展根室巡回展	総合文化会館	10/4~10/9	383名
グループ美術展	総合文化会館	6/28~6/30	790名
全道展道東地区展（根室特別展）	総合文化会館	8/17~8/21	643名
二科会写真展根室巡回展	総合文化会館	1/30~2/2	546名
2020 みんなでオンステージ in ねむろ	総合文化会館	2/16	720名
姉妹都市黒部市文化作品交流事業	総合文化会館	11/20~ 11/24	281名
児童生徒音楽大会	総合文化会館	9/29	788名
根室市総合文化会館所蔵美術展	総合文化会館	9/4~9/8	361名
総合文化会館ホール使用状況	大ホール	35件	13,049名
	小ホール	42件	6,788名

【総合文化会館整備】

（単位：千円）

事業名等	事業内容	事業費
総合文化会館整備事業	洋式トイレ改修、大ホールスピーカ他改修、 ホールカメラ設備改修、展示用パネル購入他	60,499

【公民館活動】

事業名	場 所	開催日・回数	参加者等
パパママ学級(旧母親教室)	公民館	5/19~2/13 年4期	86名
あそびの広場 (旧親子で学ぶふれあい教室)	公民館 他	5/17~2/21 14回	225名
伝統文化・郷土芸能体験 プログラム	各小学校	6/13~2/6 7校	212名
成人学校(18講座) *新型コロナの影響により第3期期間を R2.4.16まで延期	公民館	6/6~4/16 年3期	848名
音訳ボランティア養成講座	公民館	5/9~8/8 14回	72名
寿大学	公民館 他	4/15~2/7 18回	860名
女性セミナー	公民館 他	4/25~2/20 13回	287名
市民大学	公民館	10/11~ 10/25 3回	136名
公民館分館講座	歯舞分館	4月~2月 19回	89名
移動公民館講座	地域会館 他	3回	11名
みらいのアーティスト応援事業 ・山本二三展 ・山本二三制作実演・絵画解説 ・Satoly アート教室 ・ピアノレッスン ・大会参加助成	総合文化会館 総合文化会館 総合文化会館 総合文化会館 札幌市	6/12~6/16 6/15 1/14 新型コロナにより 順延 8/10~8/11	1, 220名 50名 42名 — 1件1名
大人のお宝ギャラリー&トークセッション ・LM(ライトミュージック)楽器編 ・ホビー&コレクション編	総合文化会館 総合文化会館	8/24~8/25 新型コロナにより 中止	231名 —
根室市文化祭	公民館・文化会館	10/10~ 11/24	3, 799名
子ども書き初め教室	総合文化会館 他	1/7~1/10 6カ所	110名
北海道巡回小劇場	総合文化会館	9/20	323名
釧根「絵手紙」移動展	公民館	7/24~7/28	533名
道民芸術祭地方祭 ・管内民謡のつどい ・管内文芸大会 ・管内総合芸術展	根室市 開催なし 根室市	7/21 11/29~12/1	253名 — 647名

芸術・文化情報提供事業	総合文化会館	毎月1回 12回	—
-------------	--------	-------------	---

【博物館活動】

事業名等	場所等	開催日	参加者等
企画展 「北構保男氏の研究業績と 根室地方のオホーツク文化資料」	総合文化会館	9/16~9/19	273名
特別講演会「オホーツク文化から日本を見る」	総合文化会館	9/18	300名
パネル展 「海辺でみつけたタカラモノ展 ～根室でビーチコーミングを楽しもう」	総合文化会館	4/27~5/10	1,760名
自然観察会 「春の足環つけ調査体験&ちょこっと森散歩」	フィールドイン 風露荘	5/11	17名
自然観察会 「春の春国岱でビーチコーミング！ 海のお宝みつけよう」	春国岱海岸	5/18	31名
対談「1792年日露出会いの地・根室」	総合文化会館	5/31	75名
資料館ラボ vol.10 「どんな魚にあえるかな？ 根室の川でお魚調査体験」	別当賀フレシマ	7/21	16名
ミニ企画展 「海辺でみつけた小さなタカラモノ展」	資料館	8/1~8/25	551名
ワークショップ 「ミニチュア土偶作り講座」	総合文化会館	8/17	16名
ワークショップ 「とげとげウニからランプを作ろう」	資料館	8/18	15名
市政ウォッチングねむろ 「根室の海辺 ～ビーチコーミングから学ぶ～ コース」	市内海岸	9/1	22名
資料館ラボ vol.11「足環つけ調査体験秋編」	フィールドイン 風露荘	9/22	11名
北海道博物館公開講座シンポジウム 「北方四島専門家交流の成果とその役割と課題」	北方四島交流 センター	11/9	100名
資料館講演会 「ヒグマの生態と生息動向および 近年の被害状況から見たヒグマと人の関係」	総合文化会館	12/4	55名

地域の文化遺産普及啓発フォーラム 「北海道の古代集落」	総合文化会館	12/8	70名
ねむろマチカドミュージアム展示 (年2回、展示内容を更新)	道の駅ワ 44、 大地みらい信金 本店、望郷の家	4月～3月	—
学校及び放課後教室と連携した出前講座	市内小学校等	4月～3月 11回	604名
藤野家文書解読会	総合文化会館	4月～3月 月2回	128名
国・道・市指定文化財巡視	根室半島一円	随時	—
歴史史跡標柱等巡視	根室半島一円	随時	—

【スポーツ活動】

事業名等	場所等	参加者等	備考
ふまねっとサポーター養成講習会	根室市総合文化会館	11名	
武田修宏少年サッカー教室・トークショー	総合運動公園サッカー・ラグビー場 根室市総合文化会館	80名 200名	サッカー教室 トークショー
第35回根室市小学生陸上競技大会	根室市運動広場	34名	
第52回根室市総合体育祭	青少年センター他	478名	13種目
第3回最東端ねむろシーサイドマラソン	青少年センター～ 道道オホーツク折返	1,054名	ハーフ・10K・5K 3K・1K
第27回市民ソフトバレーボール大会	青少年センター	106名	17チーム
第46回根室市フットサル大会	青少年センター	44名	U10：3チーム U12：4チーム 他は中止
第63回根室市スケート大会	総合運動公園 スケートリンク	77名	
第62回厚床-根室駅伝競走	旧厚床小～市役所	44名	一般8チーム
第54回根室市子ども会卓球大会	青少年センター	28名	団体3チーム(10名) 個人18名
「ねむろギネス」に挑戦！記録会	河畔グラウンド他	40名	3種目
トレーニング機械指導者養成講習会	温水プール	107名	毎月1回開催 令和2年3月中止
小学生スケート教室	総合運動公園 スケートリンク	20名	申込20名

学校開放事業	小・中学校	6,678名	小学校3校 中学校4校
スポーツ少年団活動支援事業	小・中学校他	581名	16団体 団員453名 指導者128名
根室市スポーツ奨励賞表彰式	総合文化会館		1個人決定 表彰式延期
第5回根室市長杯卓球選手権大会	青少年センター	39名	
チビっ子水泳教室	温水プール	173名	R2就学の幼児
とんぎょコース水泳教室	温水プール	795名	小学1～3年生
やまべコース水泳教室	温水プール	173名	小学4～6年生
やまべ・とんぎょ合同中級者コース水泳教室	温水プール	13名	小学1～6年生
フィン体験	温水プール	29名	一般市民
水中運動教室（朝の部／午後の部／夜の部）	温水プール	737名	一般市民
脂肪燃焼コース	温水プール	31名	一般市民
大人の水泳教室	温水プール	107名	一般市民
大人の水泳教室（初級）	温水プール	218名	一般市民
大人の水泳教室（中級）	温水プール	173名	一般市民
大人の水泳教室（4泳法）	温水プール	123名	一般市民
親子スイミング	温水プール	38名	2～3歳の幼児と 保護者
幼児ひよこさんコース	温水プール	82名	3～4歳の幼児
幼児ぺんぎんさんコース	温水プール	135名	4～5歳の幼児
夏休み短期水泳教室（低学年・高学年）	温水プール	128名	小学1～6年生
ストレッチ運動教室（午前の部／午後の部）	温水プール	678名	一般市民
温水プール無料開放事業	温水プール	969名	
水泳指導者研修会	温水プール	4名	市内水泳指導員
総合型地域スポーツクラブ「ねむろコミュニティスポーツくらぶ」による各種事業の開催	北斗小体育館で 週1回の定期活動	会員 30名	
摩周・風衝草原トレッキング	摩周岳	32名	一般市民含む
春国岱自然観察と清掃活動	春国岱	21名	

カヌー体験	別当賀川	3名	
乗馬体験	根室乗馬クラブ	10名	
楽しいピンポンの集い	青少年センター	30名	一般市民含む
楽しいミニテニス交流会	青少年センター	4名	
北方領土まで歩こう会	納沙布	9名	
楽しい餅つき交流会	北斗小学校	19名	

【施設整備関係】

事業名等	事業内容	事業費 (単位:千円)
温水プール整備事業	<ul style="list-style-type: none"> 温水プールろ過装置更新工事 温水プール高圧気中開閉器交換工事 	36,969
社会体育施設整備事業	<ul style="list-style-type: none"> 函舞スポーツセンターキュービクル気中開閉器取替工事 根室市パークゴルフ場管理棟電源引込工事 根室市パークゴルフ場エアコンプレッサー(2台)一式設置 	7,523
青少年センター整備事業	<ul style="list-style-type: none"> 青少年センター体育館床面補修工事 	4,320
社会体育施設用車両購入事業	<ul style="list-style-type: none"> 2tトラック購入(1台) 	4,860

【図書館活動】

事業名等	開催日時	参加者等	備考
職業体験学習・図書館実習・教員研修	随時	3件 6人	中学3校/5名 高校1校/1名
各種「本展示コーナー」開設	随時	回数34回 展示図書2,813冊	「春のお弁当づくり」他
一般・高齢者向け図書館サービス「図書館カフェ」	7月～11月	回数 4回 (7/28, 8/25, 9/22, 11/3) 参加者数 計236人 (図書館ボランティア・協力者 計29人)	
「高齢者図書お届けサービス」	偶数月	高齢者施設 8ヶ所 (老人福祉センター・特養はまなす園 他) 8施設＝80件/3,053冊配本	
「雑誌スポンサー制度」	通年	スポンサー登録企業 9社・2団体＝17雑誌	

移動図書館車の定期巡回	通年	市内 31 ステーション（火～金） 巡回日数 162 日 利用者総件数 6,395 件 貸出冊数 74,320 冊
まちなかライブラリー	通年	市内 11 郵便局に設置 660 冊配本：図書館蔵書外図書
図書宅配サービス （18歳以下対象）	3月	実施期間 令和2年 3月5日～4月5日 80件、627冊

施策評価

- 「成人式」では、新成人で組織する実行委員会が「青雲之志」をテーマに、オープニング及び式典を進行するとともに、スライドショー等の作成や、「インスタ映え」写真コーナーを設置するなど、団体活動をとおして社会性や協調性を培っている。
- 「若ものの学園」では、ヨガ、パティシエなど4講座を開催し、青年が社会教育活動に参加する機会の提供に努めている。
- 根室市青年サークル連絡協議会では、青年研修会や交流会などを開催し活動しているが、今後、より活性化するためには、青年団体などと更なる協議が必要である。
なお、東京での国内研修を予定していたが、新型コロナの影響により中止となった。
- 別当賀夢原館は、社会教育関係団体をはじめ、学校の炊事遠足や宿泊研修、少年団の合宿等のほか、町内会の利用もあり有効活用が図られているが、利用者が減少していることから、冬期の利用促進も併せて課題となっている。
- 「舞台芸術鑑賞事業」では、総合文化会館事業協会と連携して「渡辺貞夫クインテット 2019」、「山下達郎パフォーマンス 2019 根室公演」のコンサートを開催し、舞台の鑑賞機会を提供することができた。
なお、「清水ミチコ コンサート」の開催を予定していたが新型コロナの影響により開催を順延している。
- 根室市文化協会との協働のもと「根室市文化祭」を開催し、「総合展示」での作品展示や「文芸」「ステージ」の各部門で発表が行われ、郷土文化の振興を図っている。
- 各種団体と連携した「第66回写真道展根室巡回展」や「全道展道東地区展（根室特別展）」など全道的な作品の鑑賞機会の提供や、道民芸術祭地方祭における民謡のつどいや文芸大会などでの成果発表により、市民が主体となって地域の文化振興が図られている。
- 家族や友人、地域で行われている様々な活動に対し発表機会を提供するため、実行委員会を組織して「みんなでオンステージ in ねむろ」を開催し、仲間で歌や踊りを舞台上で披露することで互いの絆を深めている。

- 4年ごとに開催し7回目となる「根室市総合文化会館所蔵美術展」は、これまでに展示されていない「初展示作品」で構成し、文化会館で収蔵している作品を市民に鑑賞していただく機会提供を図った。
- 総合文化会館の施設整備については、洋式トイレ改修工事、大ホールスピーカ他改修工事、ホールカメラ設備改修工事、展示用パネル購入など、計画的に施設整備を図っている。
- 「成人学校」では、ヨガやアクセサリー制作など18講座を開催し、ホームページプログラミング講座を新たに実施するなど、入門的な学習機会の充実に努めている。
- 「寿大学」や「女性セミナー」、「市民大学」では、運営委員会を組織して学習内容を協議し、社会の変化に対応し主体的に学び続けるための講座を開催している。
- 歯舞地区の移動公民館講座では、学習機会の充実と地域のコミュニティづくりの一助として、指導者の育成・発掘や、各世代における学習ニーズに応じた新たな学習プログラムを検討しており、さらに、学習成果をいかに地域活動につなげていくかが課題である。
- 「みらいのアーティスト応援事業」では、スタジオジブリ作品の背景画家や美術監督を務めた山本 二三（やまもと にそう）氏を招聘して、企画展や制作実演、絵画解説を行い、児童・生徒の鑑賞・体験機会の提供に努めた。
- 北構保男氏から寄贈された考古資料の中か、資料的価値の高いものを常設展示するとともに、総合文化会館において企画展の開催するなか、万葉集の比較研究や元号「令和」の命名者として知られる中西 進 氏を招聘して「オホーツク文化から日本を見る」と題して特別講演会を開催するなど、根室市のオホーツク文化と北構コレクションの周知・啓発に努めた。
- 利用者の利便性を図るためトイレの改修工事と、収蔵資料の保存環境を維持するため大型収蔵室の壁と屋根の改修工事を行い、利便性の向上と施設環境の維持に努めた。
- 国指定天然記念物「カラフトルリシジミ」等が生息する高層湿原が、エゾシカなどによる菜食や踏圧などの影響が懸念されることから、高層湿原内に調査区を設けて現在の状況を把握するとともにその変遷をモニタリングする調査を行い、カラフトルリシジミの保護に努めている。
- 日本遺産については、二度にわたり不採択となったが、その後、標津町を中心に構成文化財の精選やストーリーの磨き上げを行い、令和2年1月に再申請を行った。
- 天然記念物、史跡など文化遺産や貴重な自然や動植物の調査・研究を進めるとともに、その成果を展示事業、講演会、自然観察会や史跡見学会などを通じ、市民に還元するとともに、普及・啓発を図っている。

- 大地みらい信用金庫本店ほか市内3箇所に設置している資料館のサテライト展示「ねむろマチカドミュージアム」では、展示内容を半年ごとに更新し、郷土資料や自然資料の紹介を行っている。
- 国、道、市が指定する文化財をはじめ、多数の文化遺産について、関係者、外部委員と意見を交わしながら適切な保護管理に努めている。
- 国指定史跡根室半島チャシ跡群の西月ヶ丘遺跡、ランネモトチャシ跡とノツカマフ1・2号チャシ跡は、市民や観光客の来訪に配慮し、草刈りなどを行い環境維持に努めている。
- 「みらいのアスリート・アーティスト応援事業」では、元サッカー日本代表の「^{たけだのぶひろ}武田修宏」氏を講師として招聘し、少年サッカー教室及びトークショーを実施した。
- 第3回最東端ねむろシーサイドマラソンは、5km コースを一部変更したが、完走賞の「花咲かに」、ハーフ・10km・5km 参加賞の「大判タオル」、会場内での根室名産市などは昨年同様とした結果、昨年を1人上回る過去最高の1,054人がエントリーし、北方領土返還要求運動や地域振興に資する情報発信につながった。
- 子どもたちの体力向上と健やかな成長を目的に開催している小学生陸上競技大会は、34名の参加により、トラックとフィールドで9種目の競技を実施したほか、光洋中学校陸上部6名によるデモンストレーションも行った。
 なお、今後、実行委員会において参加者の維持・増加に向けた検討が必要である。
- 総合体育祭は年に一度のスポーツの祭典として、13種目の各種スポーツ大会を実施したが、人口減や少子高齢化の進展により競技人口や運営役員が減少し、参加者は年々減少傾向にあるため、今後、参加者の維持・増加に努める必要がある。
- 「総合型地域スポーツクラブ」として10年目の活動を開始した、「ねむろコミュニティスポーツくらぶ(ぶらっと)」の活動は、定期活動をはじめ一般市民を対象とした乗馬・カヌーなどの野外活動を実施したが、参加者が減少してきていることもあり、新種目の活動を考えなければならぬ。今後も会場の確保や指導者育成など、自主活動を尊重しながら、支援に努めていく必要がある。
- 小学生スケート教室は、1・2年生と初心者を対象にスケートの基本を指導し、冬季スポーツの楽しさを体感させることができたとともに、教室終了後は、受講者が市スケート大会に参加するなど、大きな成果があがっている。
 なお、市スケート大会の参加者は年々減少しており、今後、参加者の維持・増加に向けた検討が必要である。

■ トレーニング理論や機器の操作方法を教えるトレーニング機械指導者養成講習会は、毎月1回開催しているが、健康志向の高まりや、夏季が短い根室市の気候から、室内トレーニングの利用者が増えており、今後、講習会の曜日設定や回数等、受講者の利便性を図るとともに、利用者ニーズに応じた機器の更新について検討が必要である。

■ 地域ぐるみの健康づくりとコミュニティの向上を目的に実施している「ふまねっと」は、サポーターやインストラクターを対象に活動意義や目的の復習及び指導技術の基本を再確認することを目的に、「ふまねっとサポーター養成講習会」を開催しており、また、出前講座についても町会等に依頼された際には、職員が講師として赴き、「ふまねっと」の体験会を実施している。

なお、町会・福祉団体等へかなり普及していることから、今後において、新たな運動講習会の検討が必要である。

■ 社会体育施設の多くが老朽化している中、青少年センター体育館の床面改修、歯舞スポーツセンターキュービクル・気中開閉器取替工事、温水プールのろ過装置更新工事等を行い、社会体育施設用車両を更新した。

今後とも各種制度の活用も視野に入れながら、安全性や緊急性、市民要望を考慮しながら計画的に施設整備を図っていく必要がある。

■ 総合体育館の建設については、「市民・利用者の意識調査」を基に、「(仮称)根室市総合体育館」整備基本方針を作成したところであり、今後、整備基本構想に着手する。

■ 水泳の普及・振興と水泳の生活化を推進するため、無料開放や臨時開館事業を実施し、また「親子スイミング」や「大人の水泳教室【4泳法】」その他の各種水泳教室や水中運動教室の内容を充実して実施し、「ストレッチ運動教室」の継続実施やトレーニング室、研修室を開放するなど、温水プール利用者の拡大に努め、前年度比727名の増となった。

今後も更なる利用者拡大のため、ニーズを把握するとともに、充実した事業・教室開催に向けた検討を行う。

■ 図書館ボランティアと協働で開催している大人・シニア向け図書館サービス「図書館カフェ」を4回開催し、多くの参加者の好評を得ている。

■ 高齢者に読書機会・読書環境を提供し、読書普及を図る「高齢者図書お届けサービス」を、高齢者施設の協力を得て8施設で展開し、毎月定期的に配本を行っている。

■ 「雑誌スポンサー制度」は8社・2団体から16誌のスポンサー登録をいただいております。今後とも、その宣伝効果や地域貢献に結びつく活動であることを企業・団体等へ広く周知しながら、登録を働きかけ、さらなる資料提供の拡充と図書館サービスの充実を目指していく。

- 「生活の身近なところで気軽に本に触れることができる環境づくり」を目的に、市内郵便局のスペースを借りて「まちなかライブラリー」を設置し、市内全11郵便局で実施しており、手続きが不要で、気軽に身近な郵便局で利用することができるため、市民の認知度も向上し、郵便局員の方々のご協力により利用率も順調に推移している。
- 図書館における貸し出し数は、対前年度比4,582冊減の170,954冊となり、引き続き、資料の充実、事業展開、連携・協働等における創意工夫を行い、より一層の利用促進に努めていく。
- 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、臨時休館となり、その期間、18歳以下の子ども向けに図書宅配サービスを実施した。

学識経験者の意見（総評）

○ 松井信輝氏（元根室市立花咲小学校校長）

（１）社会を生きる力の育成

- 教職員研修については、教職経験に応じて初任段階研修、中堅教諭等資質向上研修、教育研究所などの共催による研修で、教育の諸課題に対応できる教育実践力、諸課題解決能力、指導力向上に努めていることは評価できる。
- 根室市の教職員の年齢構成は若年教員が多い現状から、管内人事を活性化すると共に道の公立小中学校教職員広域人事異動要項に基づいた他管内との人事交流を通して、年齢構成の適正化を図る必要がある。
- 標準学力調査の結果に基づき、根室市学力向上プロジェクト推進会議を設置し、調査結果分析、指導方法の工夫改善及び授業改善に努めていることは評価できる。
- 指導体制の充実、確かな学力の定着、習熟度別指導、語学指導の充実、生徒指導の支援の改善、授業改善を図る調査研究に教員を配置したことは評価できる。通年で配置できるように人材の確保に努めてほしい。
- 「根室市確かな学力に関する取組方針」に基づいて、家庭での学習習慣の必要性を保護者に訴えた結果の検証、また「生活リズムチェックシート」を活用し、家庭での学習習慣、生活習慣の定着に学校と家庭が連携した取組みの検証が必要です。
- 「スイッチオフ22」に積極的に取り組んでいることはとても評価できる。
- 学校周辺の森を自然学習の場として活用し、道の愛鳥モデル校等特色ある学校の取組みに指導助言できる体制の構築が必要である。

（２）豊かな人間性の育成

- スクールカウンセラーの配置、いじめ相談室の開設、ホームページの開設等相談しやすい環境づくりに配慮していることはとても評価できる。
- 「根室市いじめ防止基本方針」に基づき、児童生徒の生命及び心身を保護する認識のもと、学校・家庭・地域住民・行政その他の関係者と連携して毅然と対応すること、「いじめのない明るい学校づくり」をテーマに、子どもたちが主体的に考える機会や課題解決に向け、自治力向上を図っていることをとても心強く思っている。

- 児童生徒の問題行動や虐待の疑いに対し、関係機関と連携を取り、迅速かつ適切な対応が取られている。「命を守る」ことを最優先に取組みを進めてほしい。
- 子どもが安全・安心な生活をするために、子どもの緊急避難場所となる「子ども110番の家」の登録増や「防犯教室」を実施し犯罪を避ける力を身につけさせたり、教職員も訓練を通して危機管理能力の向上を図ることをのぞむ。
- 各学校では、北方領土学習、北方領土に関する展示コーナーの設置、北方少年少女塾への参加等を通じ、北方領土学習の推進を図ってほしい。

(3) 特別支援教育の充実

- 特別な支援を要する児童生徒に対する指導体制の充実、教育環境の整備や保護者の教育相談や就学指導の充実が図られていることを評価したい。
- 乳幼児から一貫した支援を目指し、相談業務や関係機関との連携体制の構築や特別支援教育の充実を図るため「特別支援教育専門員」を配置し、「根室市育ちと学びの相談室 “りんくす”」を設置されていることに対して評価したい。
- 「子育てファイル “りんくす・ねむろ”」を乳幼児期から中学生まで配布されている。家庭での有効活用、教育ニーズに応じた利用のために支援を図ってほしい。
- 根室市内に特別支援学校の分校・分教室誘致について要望活動を続けてほしい。

(4) 教育環境の整備・充実

- 「根室市立小中学校適正配置計画」について、計画内容に基づき、教育効果が高められる教育環境の整備、統合及び移転の準備を遅滞のないように進めてほしい。また、小中一貫教育を図ることを目的に義務教育学校の導入の準備が進められていることに大いに期待したい。
- 「根室市教育情報化推進計画」に基づいた情報環境整備、国の「GIGAスクール構想」に基づいた端末整備の推進に向けた整備を進めてほしい。
- 地場食材や道産食材を活用した「ふるさと給食の日」を実施して食育の推進を図っていることは大変好感が持てる。
- 「学校における働き方改革のための業務改善計画」に基づき、学校・家庭・地域・行政が密接に連携し、教員が本来担うべき業務に専念できる環境整備を推進してほしい。

(5) 地域で子どもを育てる環境作りの充実

- 「教えて地域の先生」事業は、「子どもは地域で育てる」環境作りに大いに貢献している。ボランティア講師を確保するために、学校の要望に対応するため地域の先生をデータベース化することを考えてはいかがか。
- 子どもの放課後の居場所づくりとして安全に遊べ、集団活動できる放課後教室・児童教室が運営されていることは評価できる。指導者不足で休館している施設がある現状もあり、早急に指導者の確保に努めてほしい。また、各種事業に地域との交流、異世代間交流を積極的に取組まれていることは、とても好評である。
- 乳幼児期における「ブックスタート事業」、小学校1年生児童を対象とする「セカンドブック事業」は、読書週間の形成・意欲の向上に大きく寄与し好評である。継続されていくことを望みます。また「1・2年生親子読書会」は、親子で楽しみ、語り合えるような体験型の規格をするなど好評で、新たな会員の獲得へとつなげてほしい。

(6) 歴史・文化・スポーツ振興と社会教育委活動の充実

- 「根室市成人式」は新成人で組織する実行委員会が主体となり、テーマを設定しオープニング及び式典を進行するとともに式典終了後のプログラム等、団体活動を通して社会性や協調性を培い、将来根室を背負っていくのに有効な機会ととらえ、継続されていくことを望む。
- 「若ものの学園」では、青年が社会教育活動に参加する機会の提供に努めたり、交流・研修事業の支援を取られていることに好感が持てる。今後も、青年団体との活発な協議をされることを期待したい。
- 別当賀夢原館の利用状況は、夏季に有効活用が図られているが、冬季の利用促進が課題となっている現状から、冬季しかできない用具を準備し貸出したり、周辺の整備を図ることも必要である。
- 「根室市文化祭」は、文芸・展示・ステージの各部門で創造性豊かな作品展示や舞台発表が披露されるなど郷土文化の振興に大きく寄与している。市民の発表の機会を大切にしていきたい。また、全道的な鑑賞機会の提供、文芸大会等での成果発表等、市民が主体となり地域文化振興が図られる良い機会である。

- 「寿大学」「女性ミナー」「市民大学」等で運営委員会を組織し、学習内容を協議し社会の変化に対応し、主体的に学び続けるための講座を開設し好評である。市民の学びの機会を大切にしていきたい。
- 北構保男氏から寄贈された考古資料の中から企画展の開催、特別講演会を開催するなど、根室市のオホーツク文化の周知・啓発に努められたことはとても意義深い事であった。適切な保管・管理・広報活動に努めてほしい。
- 根室市が誇る史跡などの文化遺産・天然記念物や貴重な自然の保護や保存に努められ、観察会・見学会・講演会等で市民に学習の機会を提供していることは好評である。貴重な文化財・文化遺産の保護管理・普及・啓発に努めてほしい。
- 文化財・文化遺産について、関係者、外部委員と意見を交わしながら適切な保護管理に努めていただきたい。
- 子どもたちの体力向上と健やかな成長を目的に開催している陸上競技大会、スポーツの祭典としての総合体育祭には、参加者が減少傾向にあるため、参加者の維持・増加に向けた検討が必要である。参加者がいる限り少ないから中止としないしてほしい。
- 小学生スケート教室は、初心者子どもにとって素晴らしい取り組みで保護者にとっても期待するところです。市のスケート大会は参加者が減少傾向ですが冬を楽しむ良い機会があるので続けてほしい。
- 「総合型スポーツクラブ（ぷらっと）」の参加者が減少傾向にある中で、新種目の活動や会場の確保、指導者育成など自主活動を尊重しながら支援に努めていくことが必要です。
- トレーニング機械指導者養成講習会には、健康志向の高まりや室内トレーニングの利用者が増加傾向にあるということから、利用者のニーズに応じた機器の導入を検討してほしい。
- 地域ぐるみの健康づくりとコミュニティの向上を目的に実施している「ふまねっと」は町会・福祉団体等へかなり普及し好評である。
- 水泳の普及・振興と水泳の生活化を推進するために、無料開放や臨時会館事業、各種水泳教室・水中運動教室を実施し好評である。利用者のニーズを把握し多種多様な事業・教室を検討し開催されることを期待します。
- 「まちなかライブラリー」を全郵便局に設置され、認知度も向上し郵便局員の方々の協力により利用率も向上している。気軽に本にふれる環境ができたことは、とても評価されているので継続してほしい。

- 高齢者に読書機械・読書環境を提供し読書普及を図る「高齢者図書お届けサービス」を8施設で展開し好感が持てる。継続していただきたい。
- 「雑誌スポンサー」制度に共感され多数登録されている。多くの企業・団体に宣伝効果・地域貢献に結びつく活動を周知するとともに、資料提供拡充と図書館サービスの充実を図ってほしい。
- 社会体育施設等で老朽化が進んでいるという。各種制度の活用も視野に入れ、安全性や緊急性、市民の要望を考慮しながら計画的に施設整備を図ってほしい。また、総合体育館の建設は、整備基本方針から基本構想に着手されることを期待する。

最後に、令和元年度2月末からの新型コロナウイルス感染症の拡大により、学校教育活動や社会教育活動に大きな影響を与えたところであります。これまで経験のない感染症の流行の中、通常の教育活動を続けていくことは困難なことが多々あると思いますが、教育関係者の努力と、市民の理解に期待しつつ、一刻も早い終息を願います。

○ 原 田 純 子 氏 （根室市社会教育委員長）

（１）社会を生きる力の育成

- 「根室市豊かな学力向上に関する取り組み方針」に基づき、市費による学力向上等補助教員を各学校に配置していることを評価します。根室市で各学校の子どもたちの人数が減っている今、一人一人の習熟度を見ながら、学力向上を図ることは、子どもたちの成長にとって必要です。
- 朝読書、朝学習、補習授業を全ての小中学校で実施していることを評価します。特に読むこと、言葉を理解することが基礎的な学力向上の要であると考えるので、読書が自然に身につく習慣になってほしいと思います。
- 地域の人材を講師として活用した、総合的な学習の時間は、教科書以外のことを学ぶ機会であり、コミュニティ・スクール導入への参考となると思うので、いろいろな角度から人材を募集し活用していただきたいです。
- 子どもたちが「生きる力」を身に付けるキャリア教育の推進では、今後も職場体験の協力企業を募集し、様々な選択肢の中から職場体験ができるよう継続していただきたいです。
- 「生活リズムチェックシート」を活用し、「スイッチオフ２２」を全校で取り組んでいることは評価します。家庭での協力の呼びかけをし、子どもたちが主体的に取り組むことを期待します。
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、１か月以上臨時休校になったことは、いろいろな面で影響があったことと推察します。今後もこのような事態が起きた時に、子ども達の学力や心理的な負担が軽減されるような施策を望みます。

（２）「豊かな人間性の育成」に向けた取組の推進

- いじめ相談室の開設や電子メールでのいじめの相談ができるホームページを開設したことは重要なことだと思います。情報が漏れないよう細心の注意を払って対処していただきたいと思います。
- 「いじめのない明るい学校づくり」をテーマとした子ども会議の開催で、根室高校演劇部の協力で、子ども達が主体的に考える機会があることを評価します。高校生と年齢が近いことで、いじめ問題をより身近に感じられるのではないのでしょうか。

- 不登校児童生徒が通える『ふれあいくらぶ弥生』の開設と、相談員や指導員の配置を継続していることを評価します。社会へ一歩踏み出せる場所としても継続が必要であり、無理なく社会に繋がっていきけるような施策の検討も必要ではないでしょうか。
- 北方領土学習の推進を図るため、今後も北方少年少女塾への積極的な参加を進めていただきたいです。さらに北方四島交流事業へ一人でも多くの参加者が増えれば、より関心が深まると思うので発展継続していただきたい事業です。

(3) 特別支援教育の充実

- 特別支援教育コーディネーターの専任化を含めた、特別教育推進のための教員の加配措置についての要望を国に対して継続して働きかけることは重要課題と思います。
- 特別支援教育支援員を拡充して配置し、支援を必要とされる児童生徒の多い学校には複数配置し体制の充実を図っていることを評価します。支援員の研修も充実していただきたいです。
- 根室市内に特別支援学校の分校・分教室誘致について実現するよう、要望活動を今後も継続しておこなっていただきたいです。

(4) 教育効果を高める教育環境の整備・充実

- 学校における情報化の推進は、早急に進めていただきたいです。児童生徒1人に1台の端末整備の推進を図るとともに、教える先生方の負担を軽減するために、地域住民の協力を要請するという選択肢もあるのではないかと思います。
- 地場食材を使った「ふるさと給食の日」は、食育の推進効果もありますので実施回数を増やすことを今後も検討していただきたいです。

(5) 地域で子どもを育てる環境づくりの充実

- コミュニティ・スクールの導入に向けた調査、研究は今後も随時行っていく必要がありますが、制度導入についての時期を、具体的に検討する必要があります。
- 子ども会リーダー研修会の活動は、ボランティア活動の他に自然観察など多様な学びを取り入れていて評価します。リーダー研修に応募する子どもたちが増えることを期待します。
- 「絵本講演会」や「子どものつどい」など、継続して効果を上げていた事業が、今後、コロナウイルス等の影響により、事業を企画できないことが懸念されます。

- ・ 「1年生親子読書会」は根室市独自の取り組みであり、今後も継続していただきたい事業です。市内全小学校児童へ呼びかけしていることがポイントであり、共稼ぎ家庭が増えている現状で、子どもとゆっくり向き合うことができる場として、多くの親子に体験していただきたいです。

(6) 歴史・文化・スポーツ振興と社会教育活動の充実

- ・ 成人式では、毎年、新成人自らが実行委員会を組織して、式典を進行していることを評価します。企画、立案することによって、社会性や協調性が保たれているのだと思います。
- ・ 「みんなでオンステージ in ねむろ」の開催は、少人数で活動している団体にも発表の機会が与えられるので、今後も実行委員会形式で続けていただきたい事業だと思います。
- ・ 北構保男氏から寄贈された考古資料の関連で開催された、特別講演会は、根室市のオホーツク文化について知る貴重な機会となりましたので評価します。今後もコレクションの企画展の開催を要望します。
- ・ 「根室市総合文化会館所蔵美術展」は、美術館のない根室で、作品に触れられる貴重な機会なので、開催年度期間をもう少し短くしていただくことを検討願います。

また、所蔵作品等をデータベース化していくことも重要と考えます。

- ・ 根室市の高齢化が進む中で、文化会館のトイレ改修は施設環境の利便性が増したため評価します。大型収蔵室を見学する事業の検討をしていただきたいです。
- ・ 国指定史跡根室半島チャシ群の西月ヶ丘遺跡は、根室市内の行きやすい場所ではありますが、雑草が生い茂っているイメージがあり、なかなか足を踏み入れられないところと感じています。根室市の市政ウォッチングコースに取り入れていただきたいです。
- ・ 温水プール利用者の拡大に努め、利用者増になっていることは評価できます。幼児から高齢者までニーズに対応した各種水泳教室の開催等が功を奏しているのではないのでしょうか。
- ・ 大人、シニア向けの図書館カフェの開催では、大人の読み聞かせを再開するなどして、本の魅力を広める活動も検討していただきたいです。
- ・ 高齢者図書お届けサービスでの定期的配本は、読書の普及を図る良いきっかけとなると思うので評価します。
- ・ 雑誌スポンサー制度の企業への働きかけを今後も積極的に行っていただきたいです。根室市図書館の雑誌の種類は少ないと思います。図書館は本を借りるだけでなく、情報を収

集する場でもあるので、図書館サービスの一環として雑誌の種類を増やすことを検討していただきたいです。

- 図書館が、コロナウィルス感染拡大防止のため臨時休館中、図書の宅配サービスは、休校になった子どもたちへの読書普及に貢献したことを評価します。今後も、緊急事態に陥った時にも読書普及に対処できるようなマニュアルを作成することが重要です。

○ 岡 田 勝 治 氏 （根室市PTA連合会会長）

（１）社会を生きる力の育成

- ・ 根室市学力向上プロジェクト推進会議が行っている視察研修や実際に講師を招いての模範授業は、実際に現場の教職員の方々が知見を広げられる機会として、とても良い取組みと感じます。今後も、この取組を感染症対策など様々な世情を踏まえながら継続することが根室市全体の学力向上につながると思います。
- ・ 根室市確かな学力向上に関する取組方針に基づき家庭での学習習慣の定着の必要性を訴える取組を行っていますが、全ての児童・生徒に平等に同じ時間の学習を促すことは部活動やスポーツ少年団、家の手伝いといった子どもたちそれぞれの生活環境の違いがあり、なかなか難しい部分もあるのではないかと思います。学習する上での基本は言葉の理解力・読解力が基本にあり、まだ部活動などを行わない幼少期・低学年時に読書や読み聞かせする時間を家庭内で推進することで、将来的に言葉の知識を身につけることにつながると思います。
- ・ 学習意欲や生活リズムチェックシートやスイッチオフ22といった活動は、子どもたちの日常生活を監視し、改善していく観点からも今後も取り組んでいくべき活動だと思えます。

（２）豊かな人間性と健やかな体の育成

- ・ インターネット上でのいじめの問題は、なかなか発見することが難しく、特にグループLINEなどで発生したいじめの発見はなおさら困難だと思えます。今後とも子ども会議などの取組を継続していただき、いじめをより身近に感じることで、いじめを行うことが、された側にとってどう感じられるかといった想像力を子どもたちに持ってほしいと思えます。

（３）特別支援教育の充実

- ・ 特別な支援を必要とする児童・生徒の増加や早期からの一貫教育の必要性の問題のある中、専門的な教育環境を擁する特別支援学校の分校・分教室の誘致は必要だと思えます。誘致実現に向け道教委との協議、さらにはPTAや一般市民との意見交換など様々な取組が必要になるのではと思えます。

(4) 教育環境の整備充実

- ・ 小中学校適正配置計画により令和 3 年度から光洋中・啓雲中が統合、柏陵中の移転など学習環境は大きく変わろうとしています。特に統合される 2 校の生徒たちは多感な時期であり、期待や不安を心に抱えながらの新年度になると思います。これからは、そういった生徒たちの心のケアなどをしていくことも家庭内・学校内での今後の課題の一つではないかと思えます。

(5) 地域で子どもを育てる環境づくりの充実

- ・ 「子どもは地域で育てる」を目的に、コミュニティ・スクール導入の検討であったり、地域の専門知識のある方に授業していただいたりという取組は今後もぜひ続けていただきたいと思えます。近年はインターネットの普及で人同士の接触機会が薄れ、隣に誰が住んでいるかも分からないといった風潮がある中で、今後は子どもたちだけではなく、この地域だからこそ出来る人と人とのつながりの大切さや重要性を私たち大人も再認識したうえで、子どもたちに伝えていく取組も必要だと思えます。

(6) 歴史・文化・スポーツなど社会教育活動の充実

- ・ 市文化祭やコンサート等の芸術・文化の発表の場が減ってしまった中、今後新しい生活様式でどのように発表の場を作り、かつ子どもたちが鑑賞することができるか、ここが何よりの課題だと思えます。スポーツでも今後はいままでの常識が通用しない環境で、私たち大人は何を子どもたちに伝えることができるか、抽象的ではなく具体的な伝え方が運営者側、指導者側に求められていくと思えます。